

経営比較分析表（平成28年度決算）

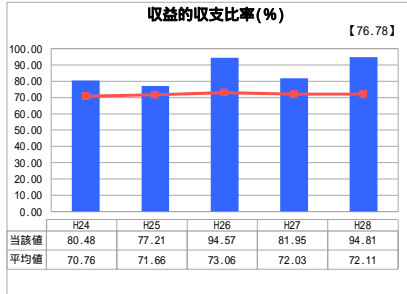
佐賀県 小城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	0.67	3,348	

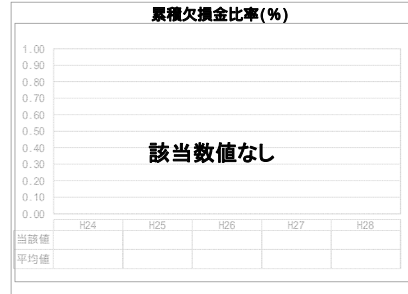
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,641	95.81	476.37
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
303	5.40	56.11

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



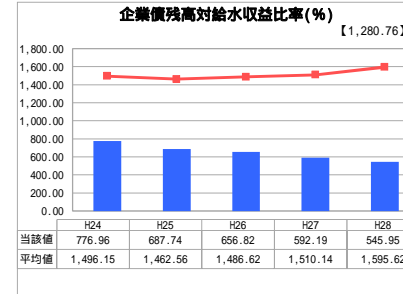
「単年度の収支」



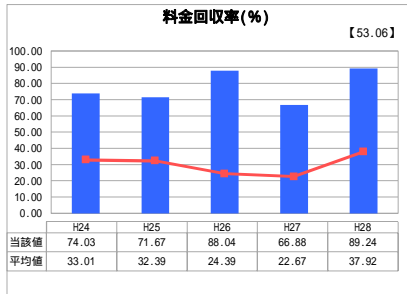
「累積欠損」



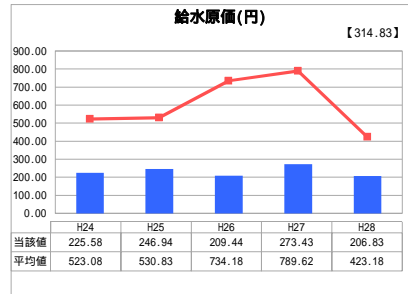
「支払能力」



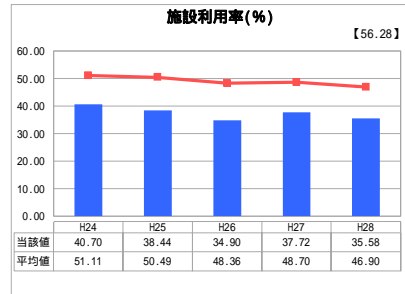
「債務残高」



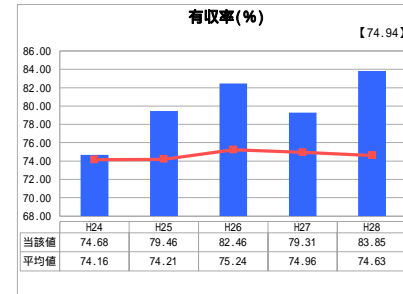
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

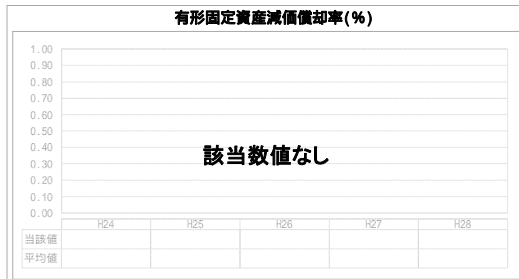


「施設の効率性」

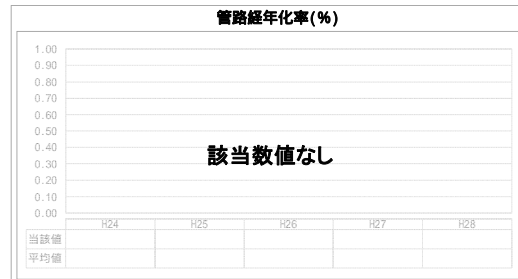


「供給した配水量の効率性」

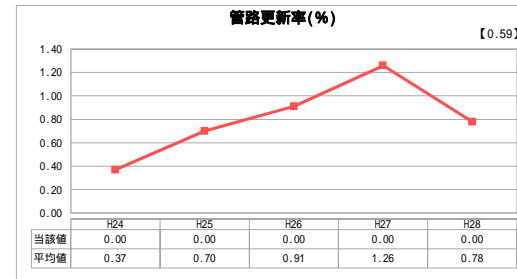
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は年々低下傾向がみられていたが、平成25年度から水道料金の値上げを実施し、給水収益の改善を図ったため向上している。
次に企業債残高対給水収益比率については、新たに企業債の借り入れを行っていないことで残高は減少している。
また、料金回収率は類似団体平均値を上回っているが、料金値上げにより改善がみられる。
収益的収支比率及び料金回収率は、平成27年度に更新工事等を実施したため低下しているが、今年度は向上している。
なお、有収率は漏水調査を実施し、その結果に基づき修繕等を行っているため、平均値より高く推移している。

2. 老朽化の状況について

整備後47年が経過した設備などがあり、今後老朽化対策が必要となるが、修繕による維持管理に努めているのが現状である。

全体総括

山間部という地理的条件のため、給水人口の増加は見込みにくい。
水道料金の値上げにより経営の安定を図っているが、今後も経費節減等や修繕による維持管理に努める。
また、平成32年度に上水道との統合を予定している。